

RYOBI®

エア釘打機 ばら釘用

RN-2

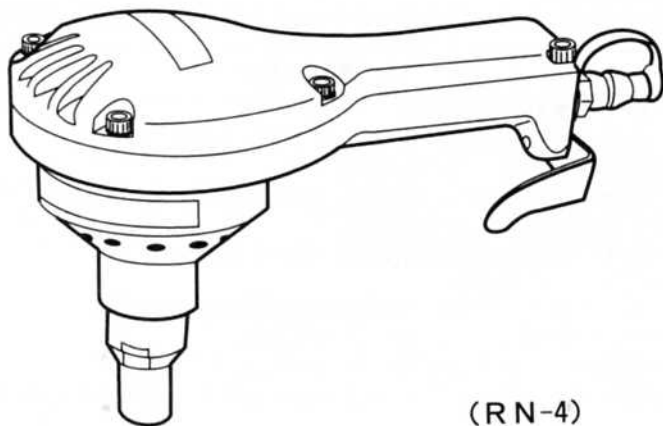
RN-2C

RN-4

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。

また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。



(RN-4)

もくじ

- ・安全上のご注意 1～4
- ・各部の名称 5
- ・仕様、付属品、別販売品、用途 5
- ・使用釘について 6
- ・ご使用前に 6
- ・操作方法 7～9
- ・保守と点検 10



このたびは、リョービエア釘打機をお買上げいただきありがとうございます。
安全に能率よくお使いいただくために、ご使用前にこの安全に関する注意事項、及び取扱説明書を最後までよくお読みください。
使用上の注意事項、本機の能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。

注意文の「△警告」、「△注意」の意味について

ご使用上の注意事項は「△警告」と「△注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

なお、「△注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

△警告：誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

△注意：誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

「△警告」・「△注意」以外に製品の据付け、操作、メンテナンス等に関する重要な注意事項は「(注)」にて表示しています。安全上の注意事項と同様必ず守ってください。

■安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐため、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

△ 警 告

1. 作業場は、いつもきれいに保ってください。
 - ・ ちらかった場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 作業場の周囲状況も考慮してください。
 - ・ 工具は、雨中で使用したり、湿った、またはぬれた場所で使用しないでください。
 - ・ 作業場は十分に明るくしてください。
 - ・ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。
3. 子供を近づけないでください。
 - ・ 作業員以外、工具やエアホースに触れさせないでください。
 - ・ 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
4. 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - ・ 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。
5. 作業に合った工具を使用してください。
 - ・ 指定された用途以外に使用しないでください。
6. きちんとした服装で作業してください。
 - ・ だぶだぶの衣服やネックレス等の装身具は着用しないでください。
 - ・ 屋外での作業の場合には、滑止めのついた履物の使用をお勧めします。
 - ・ 長い髪は、帽子やヘアカバー等で覆ってください。
7. 保護めがねを使用してください。
 - ・ 作業時は、保護めがねを使用してください。また、周囲の状況に合わせ、ヘルメット、耳栓、防塵マスクなどの保護具を使用してください。

8. エアホースを乱暴に扱わないでください。
 - ・エアホースを持って工具を運んだり、エアホースを熱、油、角のところがった所に近づけないでください。
9. 無理な姿勢で作業をしないでください。
 - ・常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。
10. 工具は、注意深く手入れをしてください。
 - ・安全に能率よく作業をしていただくために、注油や付属品の交換を、取扱説明書に従い行なってください。
 - ・握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリースがつかないようにしてください。
11. 次の場合は、エアホースを動力源から抜いてください。
 - ・使用しない、または修理する場合。
 - ・各部の調整をする場合、その他危険が予想される場合。
12. 乾燥したきれいな圧縮空気のみをご使用ください。
 - ・空気以外の高圧ガスを使用しますと、レギュレーターを凍結させたり、潤滑油との接触、または釘打込み時の火花などにより、爆発する恐れがあります。
13. 指定の圧力範囲でご使用ください。
 - ・銘板、取扱説明書に指定された範囲の圧力より高い圧力を接続すると、本体の破壊によりけがをすることがあります。
14. 使用前に各ネジ類がゆるんでいないか、必ず確認してください。
 - ・締付けが不完全な状態で使用しますと、機械が破損してけがの原因になります。
15. 油断しないで十分注意して作業を行なってください。
 - ・工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況等十分注意して慎重に作業してください。
 - ・疲れている場合は、使用しないでください。
16. 損傷した部分がないか点検してください。
 - ・使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
 - ・可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
 - ・損傷した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。取扱説明書に指示されていない場合は、お買上げの販売店またはリョービ販売営業所で修理を行なってください。
17. 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。
 - ・本取扱説明書およびリョービパワーツールカタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となる恐れがありますので使用しないでください。
18. 工具の修理は、専門店に依頼してください。
 - ・修理は、必ずお買上げの販売店またはリョービ販売営業所にお申し付けください。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがの原因となります。

騒音について

ご使用に際し、周囲に迷惑をかけないように、各都道府県等の条例で定める騒音規制値以下でご使用になる必要があります。必要に応じてしゃ音壁を設けるなどしてください。

エア釘打機ご使用に際して

先にエア工具としての共通の警告・注意事項を述べましたが、エア釘打機をご使用の際は、さらにつきに述べる警告・注意事項を守ってください。

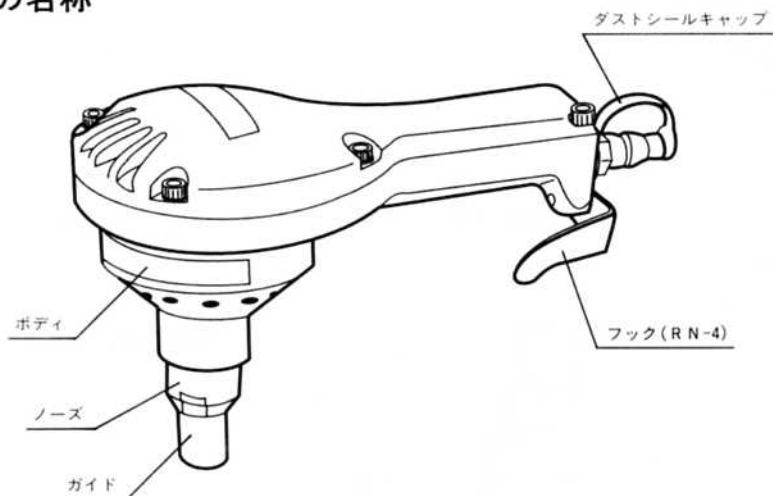
△ 警 告

1. いかなる場合にも、釘射出口を人体には向けないでください。
 - ・けがの原因になります。
2. 保護めがねを使用してください。
 - ・排気圧により舞上がった粉塵や、打損じにより跳返った釘が目に入る恐れがあります。
 - ・保護めがねは、J I S規格で認められたもの、または、それに準ずるものをご使用ください。
3. 薄板、柔い板に釘を打込む場合は、裏側に人、身体の一部がないことを確認した上で作業を行なってください。
 - ・けがの原因になります。
4. 材料の端には打たないでください。
 - ・釘がそれたり、木材片が飛散することがあり危険です。
5. 一度打込んだ釘の上に打込まないでください。
 - ・釘がはね返ったり、それる恐れがあり、けがの原因になります。
6. 打込み終了時や、節等に当たった場合に、機体が打込みの反発ではね返ることがありますので、顔等を機体にあまり近づけないでください。
 - ・けがの原因になります。
7. 作業を行なわない時、釘詰まりを取除く時、点検及び修理の際には、必ずエアキャブを外してください。
 - ・けがの原因になります。
8. 本取扱説明書およびリョービパワーツールカタログに記載されている釘以外は使用しないでください。
 - ・釘づまりや思わぬ事故によるけがの原因となることがあります。

△ 注 意

1. 釘をガイドに入れる際、必要以上に中まで入れますと、頭部がドライバーを押し、誤って作動する恐れがあり危険です。頭部がドライバー先端に触れないように注意してください。
2. 釘をガイドに入れる場合、先端を身体に向けないように注意してください。
 - ・けがの原因になります。
3. 打込み中、釘やガイド近くに手足を近づけないでください。
 - ・けがの原因になります。
4. 釘を保持する場合は、釘の中央部を持ち、先端部及びガイド近くに指、手足を近づけないでください。
 - ・けがの原因になります。
5. 安全な作業を行なうために、ヘルメット、作業シューズを使用するなど、周囲の環境に合わせて保護具を整えてください。
6. 使用後は必ず、釘を抜取って保管してください。

■各部の名称



■仕様

モデル	RN-2	RN-2C	RN-4
動力方式	ピストン往復運動		
使用空気圧	0.39~0.69MPa (4~7 kgf/cm ²)		
使用ホース内径	6mm以上		
使用釘長さ	25~50mm		50~125mm
製品寸法 (長さ)×(高さ)×(幅)	138×92×56mm	138×109×56mm	225×135×84mm
使用オイル	タービン油 #90		
重量	0.48kg	0.56kg	1.05kg

■付属品

- 油さし (30ml入)..... 1
- 六角棒レンチ (4mm)..... 1
- 大径ガイド (RN-4)..... 1

■別販売品

- フック (RN-2・RN-2C)
- かすがいガイド (RN-4)
- 保護めがね
- グローブ

■用途

- 木造建築全般の釘打ち作業。
- 枠組壁工法(2×4工法)の釘打ち作業。(RN-4)
- 屋根瓦(コロンアル材)の釘打ち作業。(RN-2C)

■使用釘について

●本釘打機には、以下の寸法に適合する釘をご使用ください。

●釘頭部径(D)

6.6mm以下 (RN-2)

6.6~10.3mm (RN-4)

(注)市販の丸釘は、頭部径の大きいものが入っている事があります。ガイドの中に釘頭部が入らないものは使用しないでください。

●釘長さ(L)

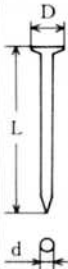
25~50mm (RN-2)

50~125mm (RN-4)

(注)使用できる釘はJ I S規格では右の表の通りです。

(注)釘頭部径10.3~12.6mmの釘を使用する場合は大径ガイドをご使用ください。(RN-4)

(注)RN-2Cは、コロニアル釘専用ですので、普通釘は使用しないでください。

釘形状	呼称	L寸法 (mm)	D寸法 (mm)	d寸法 (mm)		
	鉄丸釘 (J I S A5508)	N25	25	4.0	1.70	RN-2
		N32	32	4.5	1.90	
		N38	38	5.1	2.15	
		N45	45	5.8	2.45	
		RN-2 RN-4	N50	50	6.6	2.75
			N65	65	7.3	3.05
			N75	75	7.9	3.40
			N90	90	8.8	3.75
	RN-4	N100	100	9.8	4.20	
		N115	115	9.8	4.20	
		N125	125	10.3	4.60	
		太め鉄丸釘 (J I S A5551)	CN25	26.2	4.37	1.83
CN32	32.7		5.16	2.03		
CN40	39.2		6.35	2.51		
CN45	45.6		6.35	2.51		
2×4 工法用	太め 鉄丸釘 (J I S A5551)	CN50	50	6.8	2.87	RN-4
		CN65	65	7.1	3.33	
		CN75	75	7.9	3.76	
		CN90	90	8.7	4.11	
	接合 金物用	ZN65	65	7.1	3.33	
ZN90	90	8.7	4.11			

■ご使用前に

●配管上の注意

- 本機を十分に発揮できるコンプレッサーをご使用ください。(高圧ガス等は絶対に使用しないでください。)
- エアホースは内径6mm以上のものを使用し、できるだけ短くしてください。細いホースや、長すぎる使用は圧力低下の原因となります。

- 本機を最適な条件で使用する為にエアフィルター、レギュレーター、オイルを取付けるようにお勧めします。



●使用空気圧の確認・調整

- ご使用になる空気圧は、釘の打込み状態(釘の径、長さ、打込み対象材の硬軟等)に応じて0.39~0.69MPa(4~7kgf/cm²)の範囲で調整してご使用ください。
(注)本機の使用空気圧は0.39~0.69MPa(4~7kgf/cm²)です。0.39MPa(4kgf/cm²)未満または、0.69MPa(7kgf/cm²)を超える空気圧での使用は、本機の性能寿命及び安全性に悪影響を与えますので、絶対に避けてください。

●エアホースの接続



- エアホース接続の時は、射出口を人に向けないでください。又、誤作動を防ぐ為、ガイドの先が物に触れるような状態での接続は避けてください。

- エアプラグにエアチャックを接続します。

■操作方法

●打込み方法

△ 警 告

- ・指定の圧力範囲でご使用ください。銘板、取扱説明書に指定された範囲の圧力より高い圧力を接続すると、本体の破壊によりけがをすることがあります。
- ・いかなる場合にも、釘射出口を人体には向けないでください。けがの原因になります。
- ・保護めがねを使用してください。排気圧により舞上がった粉塵や、打損じにより跳返った釘が目に入る恐れがあります。保護めがねは J I S 規格で認められたものまたはそれに準ずるものをご使用ください。
- ・薄板、柔い板に釘を打込む場合は、裏側に人、身体の一部がないことを確認した上で作業を行なってください。けがの原因になります。
- ・材料の端には打たないでください。釘がそれたり、木材片が飛散することがあります。危険です。
- ・一度打込んだ釘の上に打込みますと、釘がはね返ったり、それる恐れがあり、けがの原因になります。
- ・打込み終了時や、節等に当たった場合に、機体が打込みの反発ではね返ることがありますので、顔等を機体にあまり近づけすぎないでください。けがの原因になります。

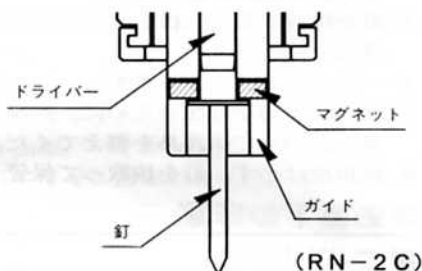
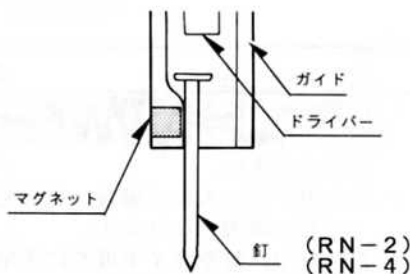
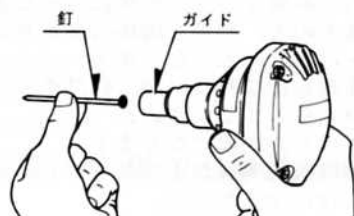
(マグネットで釘を保持する場合)

△ 注 意

- ・釘をガイドに入れる際、必要以上に中まで入れますと、頭部がドライバーを押し、誤って作動する恐れがあり危険です。頭部がドライバー先端に触れないように注意してください。
- ・釘をガイドに入れる場合、先端を身体に向けないように注意してください。けがの原因になります。
- ・打込み中、釘やガイド近くに手足を近づけないでください。けがの原因になります。

- 全長50～90mm (RN-4)、25～50mm (RN-2・RN-2C) の釘はマグネットでガイドに保持して打込むことができます。

- ①釘の軸を指で軽く持ち、頭部をガイド内にさし入れ、マグネットで保持させます。
- ②釘の先端を打込み箇所当て、本体を押付けて釘を打込んでください。



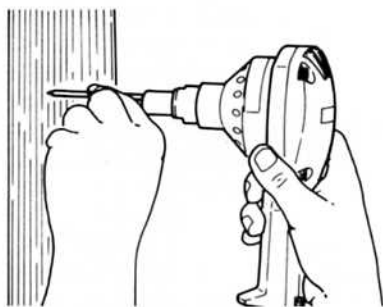
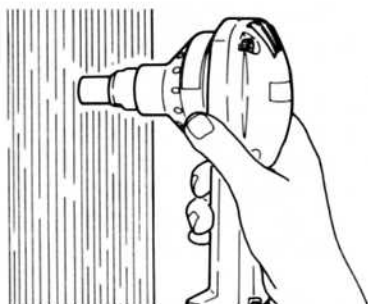
(指で釘を保持する場合) (RN-4のみ)

△ 注意

・釘を保持する場合は、釘の中央部を持ち、先端部及びガイド近くに指、手足を近づけないでください。けがの原因になります。

- 長さ90mmを超える釘の場合、マグネットでは、ガイドに釘を真直ぐに保持できません。指で釘を保持して打込んでください。
- ①釘の軸を指で軽く持ち、先端を打込み箇所当てます。
- ②ガイドの中に釘の頭部を入れて本体を軽く押付け、ある程度まで打込みます。
- ③釘がある程度打込まれて安定しましたら、保持している指を離し、続けて釘を打込んでください。

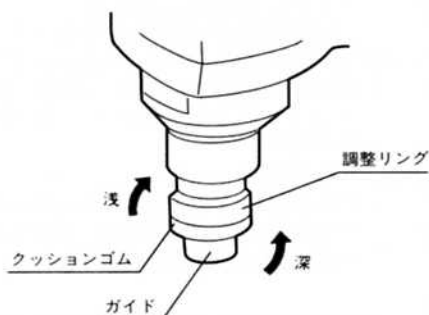
(注)使用空気圧0.39MPa(4 kgf/cm²)未満となった場合、ドライバが固定され、エア抜け状態となることがあります。この場合は、一度エアホースを外し、空気圧を0.39MPa(4 kgf/cm²)以上に上げた後、再度エアホースを接続して作業を続けてください。



●打込み深さ調整リングについて(RN-2C)

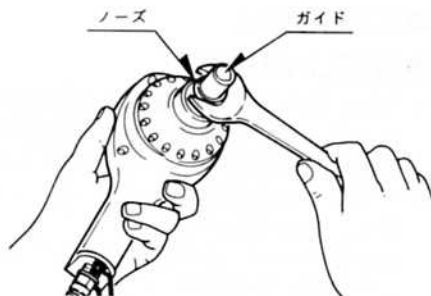
- RN-2Cでは釘の打込み材料に打痕が残らないように打込み深さ調整ができるようになっています。
- (打込み深さの調整)
- 打込み深さの調整はガイド下部外側の深さ調整リングを回して行ないます。
- 調整リングを右に回せば打込み深さは深く、左で浅くなります。
- ご使用前に不要材で打込み深さを確認しながら行なってください。

(注)調整リングを左に回し続けるとガイド部よりリングが外れます。



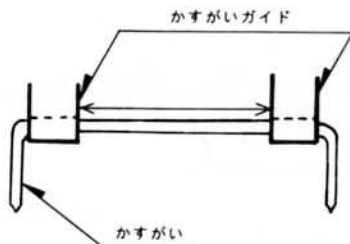
●大径ガイドについて(RN-4)

- 釘の頭部径が10.3mmを超える釘を打込む場合は、大径ガイドをご使用ください。
- ガイドの交換は、ノーズをゆるめれば、簡単に行なうことができます。



●かすがいガイド(別販売品)について(RN-4)

- かすがいガイドを使用して、軸径6mm以下のかすがいを打つことができます。
- ①かすがいの軸を指で軽く保持し、かすがいを打込み箇所当てます。
 - ②かすがいガイドの溝にかすがいを入れ、本体を軽く押付けます。
 - ③かすがいがある程度打込まれ安定しましたら、保持している指をはなし、打込みます。
- かすがいの打込みは、中央部に本機を当てますと、かすがいが曲り、きれいに打込めません。本機を左右に動かしながら両方の足近くに本機を当て打込んでください。



■保守と点検



・保守、点検、部品交換等のお手入れの前にエアカブラを外してください。
けがの原因になります。

●各部取付ネジの点検

- ネジなどゆるみがないか確認してください。もし、ゆるみがある場合は締直してください。

●使用後の手入れ

- ご使用後は、エアチェックをはずし本機エアプラグ部より指定オイル（タービン油 #90）を2～3滴注油してください。
- ドライバー、ガイド部及び本体各部を清掃してください。
- 本機の性能を維持する為に、定期的に点検を行なってください。特にOリング類、パンパ、ドライバーは長時間使用しますと摩耗してきます。定期点検をお買上げ販売店に依頼されることをお勧めします。
- 油污れなどをふき取り、使いやすい状態にしておいてください。

●作業後の保管

- 高温にならない、乾燥した場所に保管してください。お子さまの手の届く範囲や落下の恐れのあるところはさけてください。

●修理について

- 本機は厳密な管理の元で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合にはお買上げの販売店にご用命ください。
- その他、部品ご入用の場合、あるいは取扱い上ご不明の点、ご質問などご遠慮なくお問い合わせください。

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買上げの販売店、またはリョービ販売営業所にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観等を変更することがあります。

RYOBI

発売元

リョービ販売株式会社

製造元

リョービ株式会社